

園だより あおいそら 11月号



園長のコラム

令和6年10月18日（金）
熊本大学教育学部附属幼稚園

ペッパー君と表現遊び

今年の運動会は、快晴。暑かったのですが、無事、6日（日）に終える事ができました。たくさんのご家族の皆様、子ども達への温かい応援ありがとうございました。毎日、自分たちで作戦を立ててリレーや綱引きをしていた年長さん。その中に年少組、年中組の子ども達も加わって、一緒に遊んでくれた姿、努力は、本番の運動会でも十分力を発揮できました。全園児、素晴らしい演技を見せてくれました。また、毎年恒例の親子ダンスですが、年長組の保護者の皆様、子どもさんとスポーツについて話し合い、お家で何度も練習をしていただいたことでしょう。笑顔あふれる、楽しいオリンピックを私たちにを見せていただきました。私が子どもさん達の姿を見ていていつも思うことがあります。遊びの中で思うようにはいかず、失敗してとても悔しい思いをしても、チャレンジを繰り返していくと、少しずつ、少しずつ力がついて子どもさんたちは、自信をもった表情になっていくということです。自分のペースで、自分の思いで重ねていく経験は、これからきっと大きな力となることでしょう。さあ、子どもさん達は、これまでの活動に一区切りつけて、新しい遊びや取り組みに動き始めているようです。どんな遊びが展開されていくのかとても楽しみです。

さて、右の写真は、9月の終わりに熊本大学がトヨタ自動車、ソフトバンク社と提携して導入されたペッパー君です。これから子ども達の生活や遊びの中にどのようにしてかわりをもたせていこうかと、とてもわくわくしています。先日の運動会では、ばら組さんでペッパー君の動きをよく見て「表現遊び」をしました。そして、今週は遊びの中で、ペッパー君になりきってごっこ遊びをしています。年中組の子ども達は、自分たちの戦いごっここの空想の世界でコンピュータを取り入れて遊んでいます。普段の遊びの中で、子ども達が表現する姿は、誰かに見せるためではなく、自らの喜びのために営まれる表現の姿です。これが、本当の内面的な表現を大切にする遊び「表現遊び」なのです。



本園でも「表現遊び」を大切にしています。①教え込まず、型にはめない表現であること ②子ども自身の表現力を発揮出来る遊びであること ③子どもの自発性、主体性を重んじた表現であること 決してきらびやかな衣装を身にまとい、決まったセリフを話し続ける表現遊びはいたしません。子ども達の豊かな発想、皆で考えたアイディアを大切にしながら遊びを創り上げていきます。

「ペッパー君と表現遊び」ととても対照的な繋がりなのですが、子ども達の自由な世界では、普段の友だちとの遊びと変わらないのかもしれませんが、11月から、子ども達の表現遊びが深まっています。それぞれの年齢に合った遊び、お話づくり、そして表現できるよう取り組んで参ります。

芸術の秋！本物を知るといふ宝物

楽器の音色は、その物に直接触れ、音を出してみないと音の響きや音色、音を奏でる振動はわかりません。本物の生き物を見た時、その息づかいや大きさ、鳴き声。そしてその感動は、ずっと心と体で覚えているものです。私が教諭のころ、「子ども達には本物に触れさせてあげたい。」と副園長先生から何度も教えていただき、その経験の大切さは今でも心に残っています。身近にいろいろ便利な代替品は、たくさんありますが、園生活の中でも子ども達には、「見て、聞いて、感じて、体験して」その世界や時代を感じられる経験をしてほしいと思っています。その時の感動はこれからの人生の中できっと力になってくれるはずです。さあ、秋の心地よい季節。ご家族で本物を探す旅に出かけてみませんか。